

ヒロセ電機 2024年3月期 決算説明会

“2024”中長期成長戦略について

2024年5月8日

ヒロセ電機株式会社

代表取締役社長
石井 和徳

注意事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。

顧客・セットの環境変化

IoT/5G/AIの発展

テクノロジーは留まることなく進化し、あらゆる場所に電子機器が使用され、**使用環境/用途の多様性が拡大**

消費者の価値観多様化

嗜好に合わせたカスタマイズ対応、社会課題解決に応える製品など、**製品仕様の細分化が進行**

地政学リスクの増大

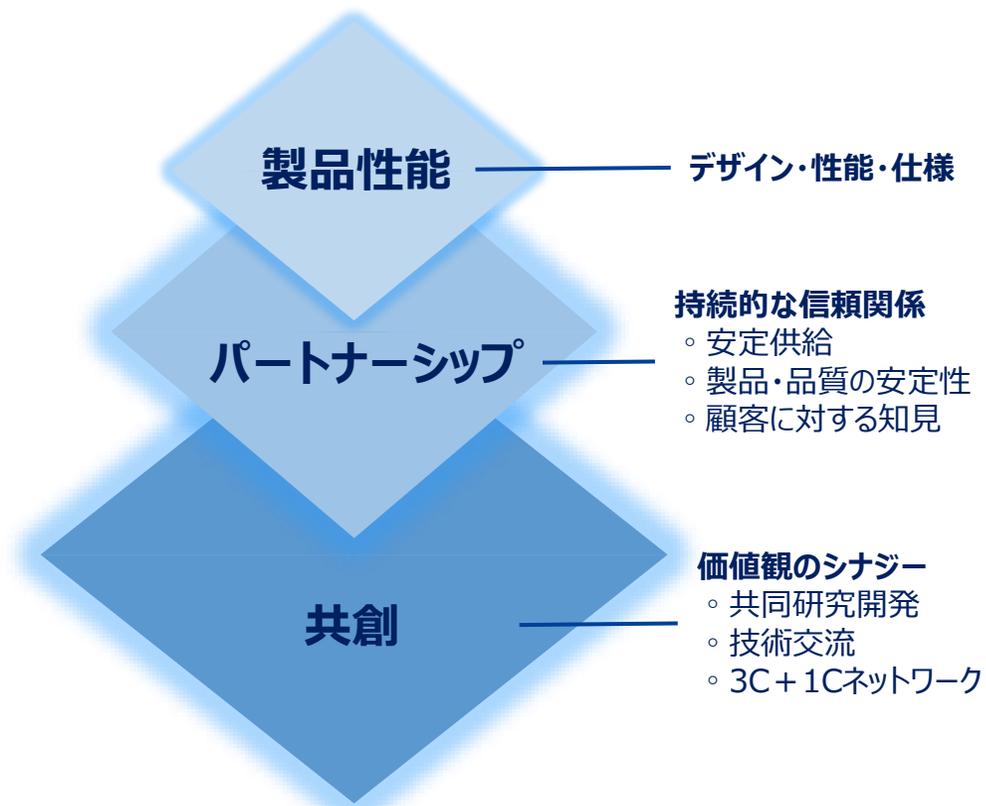
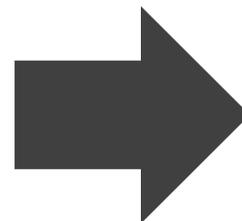
国際協調路線は後退し、対応のためにサプライチェーンの複雑性が高まり、**分散拠点の品質維持/連携が難化**

要求品質の向上

自動運転を筆頭に、電子機器が人の安心/安全に重大な関わりをもつ**Connecting Technologyの世界へ**

HRS：提供価値の深化

機器同士をつなぎ、顧客間の連携をサポートしてきたコネクタの役割が増大し、顧客における購買決定要因がより深い領域へ



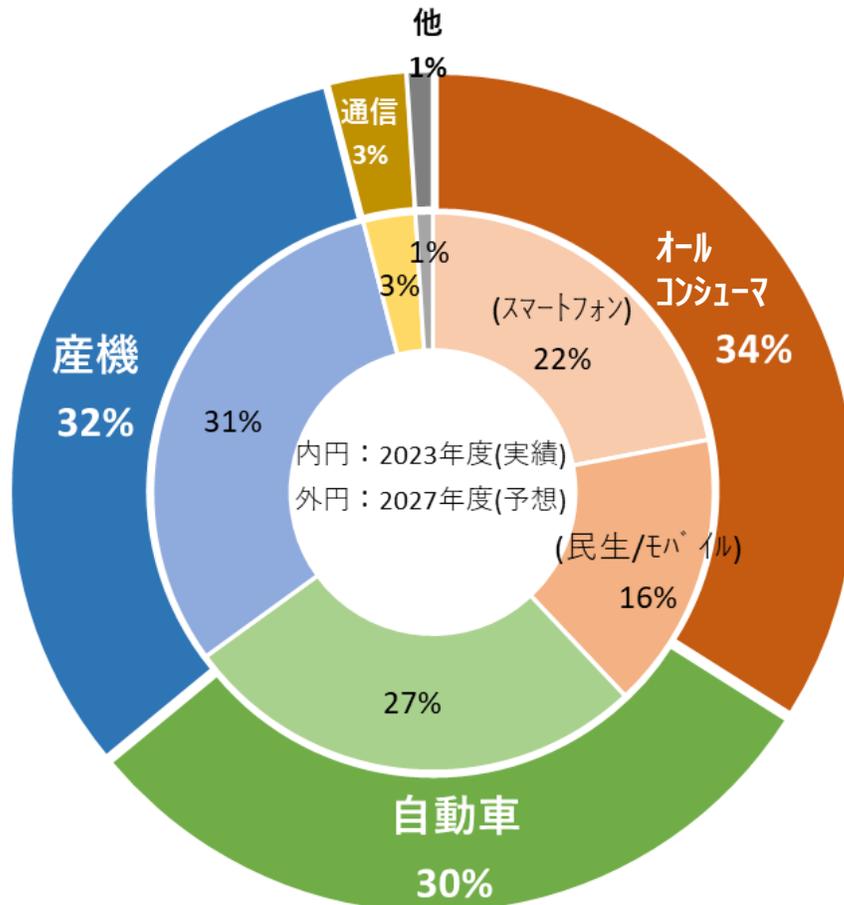
つなぐビジネスのポテンシャルがさらに高まっており、顧客の期待に応え・超えるHRSへ進化

中期経営目標

サプライチェーンの混乱期(2020-2023年度)を脱し、新たな成長局面へ移行

2027年度 数値目標

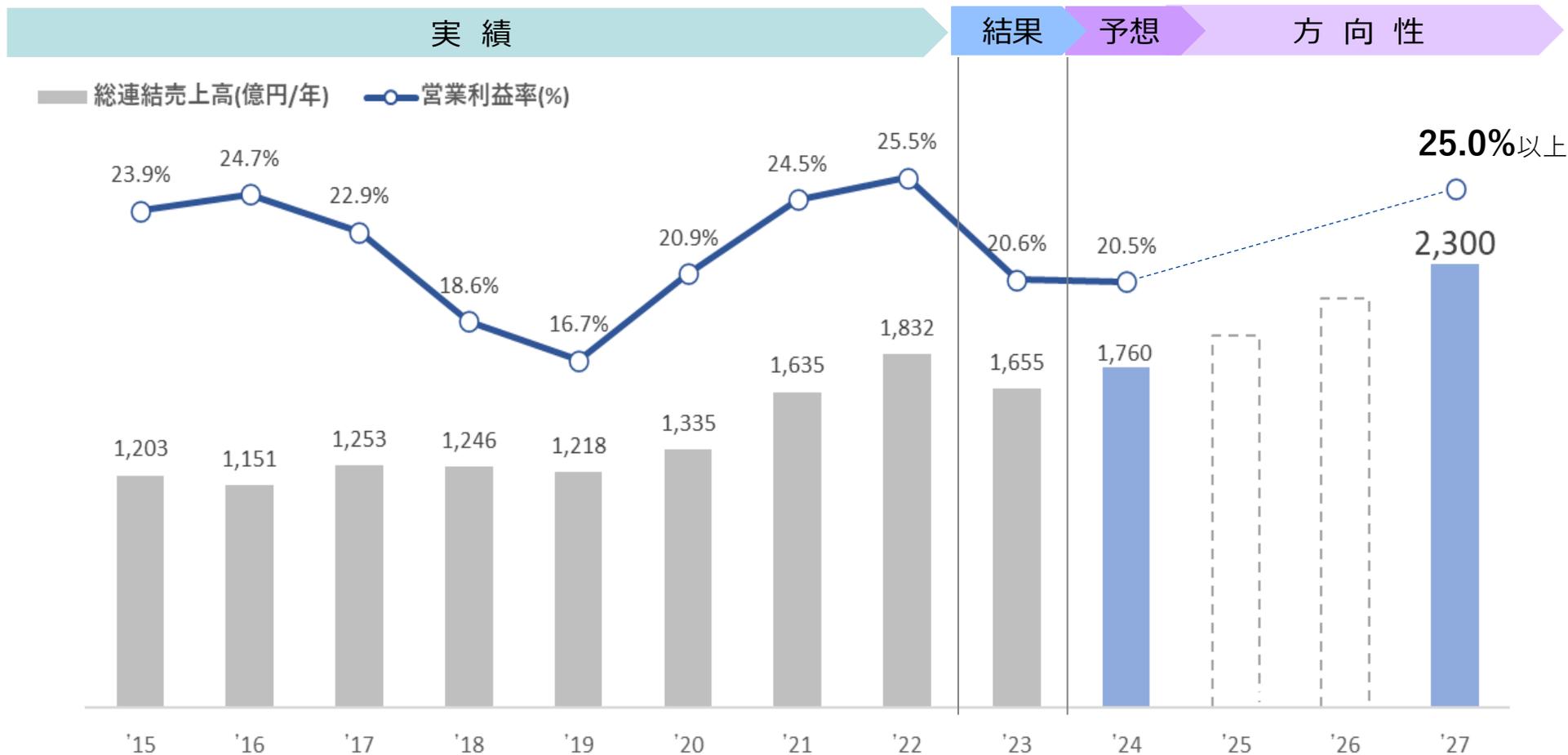
売上高：2,300億円 営業利益率：25%以上



- 質の伴った成長により、業界平均以上の伸びとシェアupを目指す
- 2027年度に3本柱によるバランスのよいポートフォリオを確立
 - ✓ コンシューマ：良い商品と強い顧客基盤を軸に、継続安定成長へ
 - ✓ 自動車：変化・対応力を活かし、成長の支柱へ
 - ✓ 産業機器：分野横断の知と経験を活かし、Global市場で飛躍
- 3本柱+Newの成長ドライバーを探索

業績成長イメージ

高収益経営を維持し、中長期的に継続成長



コロナ・バブルによる反動は底打ち 新たな成長シナリオを描く

中期 全体・分野戦略イメージ



本社 EMC試験室



一関試験センター



HRS: 【商品力+モノづくり力】で分野を横断する “つなぐテクノロジー” をサポート

各分野・機能の取り組み (1/2)

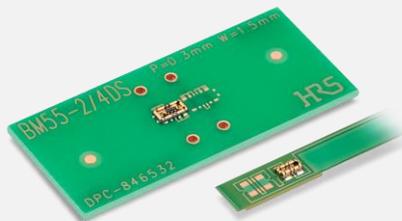
オールコンシューマ市場

競争力の維持・強化

マイクロコネクタのリーディングカンパニーとして、
商品力・モノづくり力強化

BM55シリーズ

- ・世界最小クラス
- ・電源信号複合
- ・フルアーモード
マイクロコネクタ

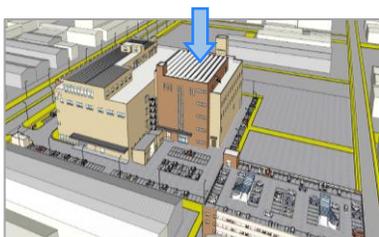


CES® 2023
Innovation Awards Honoree 受賞

*CESイノベーションアワードは、審査員に提出された説明資料に基づき審査をしています。CTAは、提出物または行われた請求の正確性を検証せず、賞が与えられたアイテムのテストはしていません。

ヒロセコリア増強

マイクロコネクタの
開発・生産拠点である
ヒロセコリア増築



自動車市場

顧客との信頼関係を深化

新たなクルマづくりを目指す顧客に対し、
企画・開発段階からパートナーシップ構築

協豊会 加入

2024年4月に協豊会への加入が認められ、企業の
垣根を越えて知見を共有し、価値貢献を深化

*協豊会：トヨタ自動車株式会社とサプライヤーをはじめとした
会員企業によるパートナーシップ組織

新郡山工場の建設・移転 2024年4月竣工

自動車・産機分野の成長のために、製造技術・
生産能力向上、BCP強化を実施
2024年5月中旬以降、順次稼働開始



産機市場

多様な企業・団体との連携

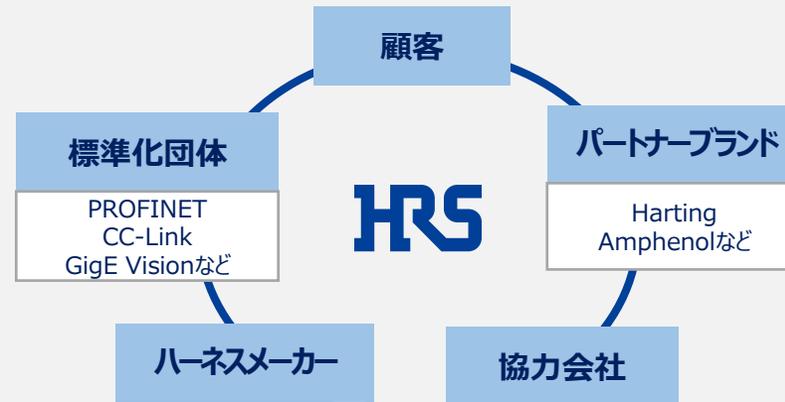
裾野が広い市場において、多様な顧客に
価値提供すべく、企業・団体と協業強化

IXシリーズ

イーサネット接続で幅広く普及している既存の
RJ-45市場に、新しい標準規格の基幹技術を提供

- ・Harting社と共同開発
パートナー順次拡大
- ・徹底した小型化と堅牢性

*従来比 体積75%削減



各分野・機能の取り組み (2/2)

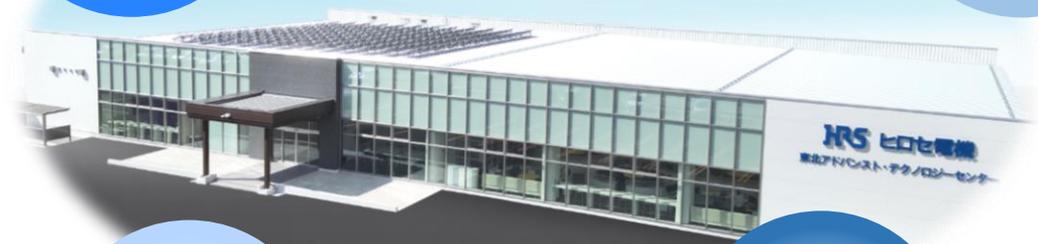
生産技術の基盤強化

岩手県盛岡市に新設「東北アドバンス・テクノロジーセンター(TATセンター)」が、2024年3月に操業開始。

国内・海外
工場

英知をつなげるTATセンター

協力会社
各社



設計部門

生産技術
部門

TATセンターの機能

1. 生産設備におけるソフトウェア技術力の強化
2. リードタイム短縮を目指した設備設計のハブ拠点
3. 最先端の生産技術エンジニアの育成
協力会社も含めて技術を学び、“共創の世界”を構築

建屋概要

敷地面積：6,983㎡ (2,116坪)

建築面積：2,092㎡ (634坪)

構造：鉄骨平屋建て

電力：自家発電として太陽光発電 40kW + 外部調達により再生可能エネルギー100%

高度な人財の雇用を創出、世界に挑戦する技術者集団の育成に貢献

<<< 2024年度 >>>

▶「**先見力・感知力と推進力**」を強化し、回復そして前進する

<特なる強化ポイント>

- 〈1〉 技術開発力・商品力 <差別化> (顧客提案～設計・量産)
- 〈2〉 “モノづくり力” (現場改善&製造改革)
- 〈3〉 人財育成 (継続：深化元年の実行)

} 継続成長・進化

▶ “各々＋チーム・組織が**能力UP**”、深化・進化する



<<< 英知をつなげる小さな会社 >>>

【HRS目指す姿】“商品力とモノづくり力”で勝負するHRSグループ



中期基本方針(2024-2027年度)

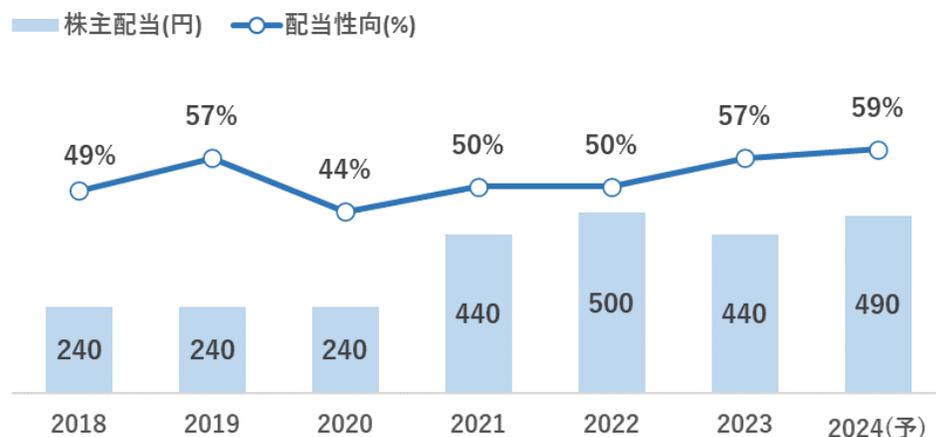
株主還元方針を改定

株主資本配当率(DOE) : 5%

継続安定成長と高収益を掲げるヒロセ電機グループとして、配当の安定的増加を目指し、単年度業績の影響を受けにくい株主資本配当率(DOE)を株主還元指標として採用。

2027年度 : 営業利益25%、ROE10%の安定的達成を目指す

配当性向の推移



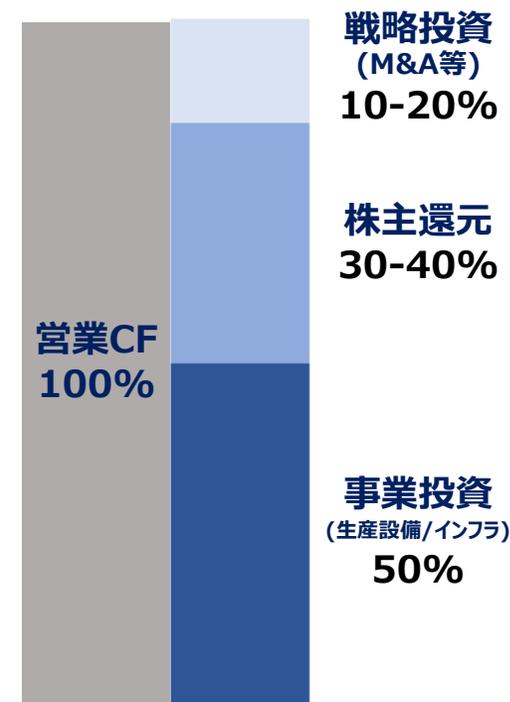
※本方針については下記の場合には見直しを行う場合があります。

- (1) 予期せぬ急激な環境変化(紛争、自然災害、感染症等)
- (2) 巨額のM&Aの資金投入が必要となった場合

中期キャッシュ アロケーション

3本柱の次なる柱を育てるため、既存事業以外の戦略投資を計画。投資規模に応じたアロケーションを行う。

2024-2027年度累計イメージ



人財育成・開発の強化

ヒロセの人づくりの視点

制度・仕組み

- ・新人事制度
- ・専門職制度
- ・リージョン社員制度
- ・人財情報の可視化 (タレントマネジメント)

本中計の重点領域

人財育成

- ・次世代リーダー育成
- ・スペシャリスト育成
- ・主体的キャリア構築
- ・再雇用, ベテラン層スキル伝承

組織活性化

- ・エンゲージメント調査
- ・360度調査
- ・従業員主体の生き生きプロジェクト
- ・異動含めた人財交流の活発化

すべての土台 : HIROSE Philosophy

従来は制度・環境面を中心に、外部環境に合わせたアップデートを実施

中計ではNewの創出を目指すヒロセらしさを追求し、チャレンジ人財の育成を計画

カーボンニュートラルへの取組進捗

2027年度 数値目標

Scope1,2 排出量 60%削減 (2021年度比)

(t-CO₂)



再生可能エネルギー導入後も“追加性”をもつ質の高い電源へのシフトを推進。

一関工場では2024年3月に地域最大規模となるソーラーカーポートを設置。従業員のマイカー雪下ろしの負担軽減も狙う。



【一関工場 (岩手県)】

再生可能エネルギー導入を進め、本中計期間において目標達成を計画

従業員エンゲージメント強化

ヒロセ電機は2023年12月より駒澤大学・陸上競技部と スポンサー契約を締結いたしました。
それは駅伝競走で個々の選手がチームのために「力強くタスキをつなぐ姿」と、
「つなぐことを生業とする私たち」を重ね合わせたからです。
つなぐことの重要性を知り、つなぐことで未来を描く企業として、社員一丸となって応援していきます。



従業員エンゲージメントの向上

- ・監督、選手との交流会等イベント実施

健康経営の推進

- ・選手とのランニング会実施
- ・スポーツウェルネス研修の開催



採用ブランディング

- ・メディアでの露出による知名度向上

人財採用強化、組織活性化により継続安定成長

HRS HIROSE
ELECTRIC
CO.,LTD.